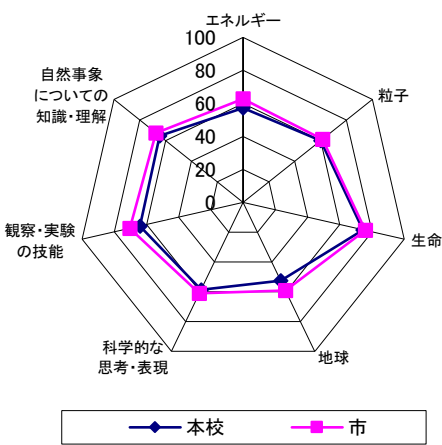


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	57.2	62.7	57.6
	粒子	60.1	61.5	57.7
	生命	74.4	75.8	72.1
	地球	52.5	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	58.6	61.0	54.8
	観察・実験の技能	64.1	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	64.7	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○「弦をはじく強さを強くしたときの波形について考えることができる」市平均を5.7%上回った。 ●「流れる電流の大きさが予想できないときにつなぐ電流計の端子を指摘できる」市平均を16.4%下回った。 ●「実験でつけた抵抗器の、電圧の電流の関係を理解している」市平均を6.2%下回った。	・実験で得た数値から計算して規則性を見いだす練習をする機会を増やす。 ・問題を数多く解く練習をし、苦手意識を減らし、式の意味を考える授業の展開を工夫する。
粒子	○「密度の求め方を理解し、物質を同定できる」市平均を1.7%上回った。 ○「鉄と硫黄の化合の実験の結果を考えることできる」市平均を6.9%上回った。 ●「メスシリンダーを使って物質の体積を測ることができる」市平均を5.2%下回った。 ●「誤った化学反応式を書き直すことができる」市平均を4.0%下回った。 ●「化合の化学変化を指摘できる」市平均を5.4%下回った。	・実験の準備やまとめにも「考える」「話合う」時間を確保し、理解を深める。 ・グラフの読み取りに慣れるように授業だけでなく、ワークなどで練習をさせる。
生命	○「シダ植物とコケ植物のからだのつくりを理解している」市平均78.9%校内平均80.2% ○「被子植物の花が目立つ色や形をし、昆虫や鳥などの動物を引きつけている理由を説明できる」市平均66.8%校内平均69.5% ○「セキツイ動物は水中生活から陸上生活に進化してきたことを考えることができる。」市平均89.0%校内平均89.3% ○「ヤモリとイモリが分類できる」市平均82.9%校内平均89.3% ○「胚の成長の順序がわかる」市平均84.8%校内平均90.9%	・知識はよく身に付いているが、数値の扱いが苦手で実際の実験値に比を当てはめて計算できないので、簡単な例題を用いて計算をし、答えを見いださせるなどいくつかのステップに分けて学習を進める。
地球	●「停滞前線をつくる気団について理解している」市平均を7.2%下回った。	・条件を元に結果を推測する練習をいろいろな場面で行う。 ・映像や実物を見て、特徴をもとにグループ化するなど実習を通して学習させる。